



アバン仙台 Jr. Youth News

第32回

2017年 6月

『菜の花杯』 Bチーム優勝！ Aチーム 準優勝！

アバンB 0 VS 0 泉中(秋田県)
(PK 11 VS 10)

アバンA 0 VS 1 仁賀保中A

思わず頭を抱える
2年生 葛巻くん

白熱PK戦を制し優勝！

大会で評価の高かった
コントロール技術ファーストコントロールで
相手の届かないところに PK戦で喜ぶ選手たち

PK戦を見守るベンチ。A・Bチームで応援

合宿中のチームの取り組み

今回の合宿では、生活の部分にも目を向けて取り組みました。「生活」というと個人の普段の過ごし方も見えてきます。「チーム」としては、「人間関係」「気づき」「行動」に取り組まれました。

①「人間関係」⇒「コミュニケーション」

日頃がない、寝食などを共にする環境でどれだけ、選手がコミュニケーションを図り、尊重し合えるかが大事です。そのため、Bチームの2年生・1年生チームのゲームテーマも「コミュニケーション」「全員でやる」というテーマとしました。

②「気づき」⇒「プレー中に戦況をみて味方選手とのバランスや修整点に気づき、選手間で調整する力」

アバンツァーレでジュニアから大事にされ、日頃から継続している整理整頓などに取り組まれました。「チーム」としては、Aチームが率先して整理整頓に取り組む姿勢が最近感じられるので、

後輩たちは見習い、行動を起こす場面も見られました。チームは正にプレー中の「調整力」を必要としていて、気づいたことはすぐ話し「調整」することに取り組まれました。

③「行動」⇒「個人と集団の行動」⇒「個人と集団によるプレー」

選手は、気づくことを大事に、行動することにチャレンジしました。寝坊癖のある選手も、自分の判断と周囲の選



全員で遊ぶ

全員で生活

自信を持てた攻撃力と連携面の課題

2年生以下のBチームは、決勝戦でPK戦までもつれ込みました。勝負は13人が蹴るという大勝負。その勝敗が決したのは、選手全員の活躍があり、大接戦を制しました。1年生にとっての初遠征、よい経験になりました。

Bチームは今大会を通し、「コミュニケーション」を大事に攻撃も守備も「全員でやる」。次のプレーを予測しながら関わることを継続する中、技術的に取り組み、これまでにない試合運びができました。全員の「関わる意識」が攻撃の厚み、リズムを作り出し、優勝という好成績をおさめる結果につながりました。

また、Bチーム選手のたちの技術的な成長とトレーニングの成果を強く感じ、今後のリーグ戦への出場と活躍、新人戦へのチームづくりにも期待感が強まりました。今後の選手一人ひとりの成長にご期待ください。

3年生のAチームは、選手の「距離間やポジショニングの調整」に取り組まれました。準決勝の試合がベストゲームとなり、チームが目指す選手が多く関わったゴールも見られました。

一番の収穫はDFの選手たちもゴールを決めることもでき、「どの選手」もゴールを意識した連携をさらに強化していける自信を持つことのできた内容でした。

今後の課題としては、ゴールに向かう連携の中でもパスの出し手と受け手の選択、動きの「単調さ、単発さ」をもっと「全員での連携」に質を上げていくことです。

今のところ、要求した選手のみをターゲットとしたパスが目立ち、CBの経験のあるコーチとしては読みやすい展開が多いです。相手の予想範囲、観やすいところでしかパスが動いていません。

今後は「パスを受ける味方の動きに2・3人が自然と関る」、相手のアプローチの逆をつく「逆・対角方向にいる選手の関り」を増やし、もっと攻撃の厚みを磨いていきましょう。チームは今、DFも前線ま

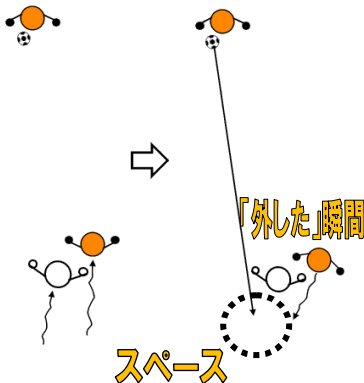
テクニカル部分への取り組み

今回、紹介するのは、『外す動き』です。チームが動き出して間もなく、テクニカルスクール、小学生のスクール、週末の選手活動などで「動きながらパスと出会うように」と「動き」を追求してきた成果が少しずつ見え始めています。ですが、試合形式のトレーニングの中で動きの意識がまだ足りていない状況です。

「外す動き」とは、自分がボールにまだ関与していない状況での動きのこと、相手のマークを外す動き方として一般的なのが、『プリアウェイ』と『プッシュアウェイ』です。

守備の意識として相手をマークする時にオフenseの動きを常に意識して視野に入れれています。プリアウェイ、プッシュアウェイは、このディフェンスの意識を逆手を取る動きです。

まずは、プリアウェイから説明しま



よう。プリアウェイは、まず足元でパスを受けるフリをして、ボールに近づいていきます。相手選手は、オフenseがパスを受けた時、前を向かせないように付いてきます。

そして、相手選手がピッタリ付いてきたことを見計らい、ターンして、相

手の背後、「スペース」を取ります。相手マークが、オフenseの足元で受

る動きに付いてきたことで、相手マークの背後にはスペースが生まれてい

ます。動きを取り、パスを受けるオフザボールの日本代表でベガルタ仙台にも在籍しエンスラインの背後を取るのが得意な選手です。 (※ 以下、「背後」

続いて、プッシュアウェイです。プッシュアウェイは、プリアウェイの逆の動きです。まず、相手マークの裏でパス

を受けるフリをして、相手マークの背後

動きます。相手マークは、裏を取られ

いように、オフenseに付いてきま

そして、相手マークがピッタリ付い

きたことを見計らい、キックとターン

て、ボールに近づきます。相手マークが、オフenseの裏を取る動きに付い

きたことで、相手マークの前にはスペースが生まれています。

こうして、相手マークを外して足元でパスを受けるオフザボールの動き

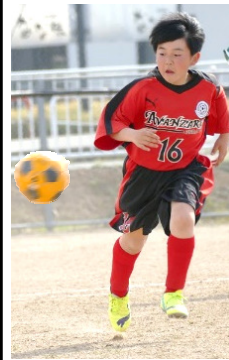
方が、プッシュアウェイです。プッシュアウェイは、ゴール前でクサビのパスを受け、ポストプレーする時などによく使われます。

ここまで紹介したプリアウェイもプッシュアウェイも、フォワードのプレーヤーが使うことの多い動き方ですが、中盤のプレーヤーも使いま

「期待の選手たち紹介」

新1年生たちが4月から活動をスタートし、早くもチームの中でチャレンジをしています。先輩となる選手もウカウカしてられませんよ。以下3名が平成29年度ジュニアユース1年生です。

佐々木新 くん (ささき あらた)



こんにちは。ジュニアユース1年生の佐々木新です。

アバンユースに入ったきっかけ

小4からアバンスクールに通い、ア

ンユースの活動を見てきて、憧れ、

ここでプレーしたいと思ったからで

ジュニアユースでの目標は、試合

荒井優輝 くん (あらい ゆうき)



アバンツァーレに入った理由はバ

モンド杯でアバンに負けて自分もこ

チームに入ってもっと上手くなりた

と思ったからです。

もう一つは自分が小学生のときに

入っていたチームとサッカーが似て

からです。

川島陽 くん (かわしま ひなた)



アバンに入った理由は、レベルが高く

ここに入れば少しでも上手になれる

思ったからです。体験で、自分の夢に

歩近づけるかもと感じたからです。

活動で頑張りたい事は、少しでもチ

ームに貢献出来る為にチームのテン

を盛り上げたり、いつも全力で練習

阿部 くん



齋藤 くん

アバン歴代OB
も活躍中

先日、東北学院榴ヶ岡高等学校での練習試合の際に学院大で活躍しているアバンジュニアユース1期生の齋藤柊哉(さいとうしゅうや)くん、2期生の阿部康輔くんと再会しました。

アバンが現在2部で再スタートをきったことも知っており、「自分たちも経験した2部をぜひ勝ち抜き1部昇格を勝